

編集後記

良い論文の基準は人それぞれにあらうが、私は、(1)主張点が明確で、(2)文章が読みやすく、(3)図表の使用が適切であること、と考えている。自らの論文の至らないことを棚に上げて他人様の論文に注文をつけるのはいささか気が引けることではあるが、最も質の高い邦文誌を目指す編集委員会の一員として、気持ちにねじを巻いて努めているつもりである。

時に論点は明瞭で独自性も十分と思われるのに、文章が読みにくいために厳しい査読をうける論文が見られる。てにをはの誤用だけでも大変読みづらくなるものである。読者を引き付けるには些細なことにも留意すべきであろう。学会発表でも内容の前に言葉づかいが気になってしまうことがある。以前は施行を「せこう」と言われるとどうも落ち着かない気がしていた。今では「しこう（または、せぎょう）」が正しいなどと言えばほとんど変人扱いかも知れないと思うようになったが、さすがに「らぬきことば」は勘弁してほしい。それでも言葉は生きて変化するもの。「らぬき」は可能を受動態から区別する巧みな使い方であると看破した故池田弥三郎氏によらずとも、いずれ近い将来「らぬきことば」が学会誌でも市民権を得て、正しい語法となることは避けられないのであろう。著者とともには査読者も独りよがりには十分気をつけねばなるまいと思う。

目を宇宙に転ずると、日毎にヘール・ボップ彗星がその明るさを増している。この星も多くの彗星と同様に個人の天文マニアが発見したものとか。真理の発見は他から見るとあたかも偶然の幸運によるようではあるが、おそらくは周到な準備と激しい熱意、想像を超える努力の上に生まれた閃きによるのではないかと思う。本誌への投稿論文も、そのようなものであれば査読させていただく身として、やり甲斐はこの上ない。

(秋本 伸)